

令和5年6月18日

## 南の風恩塚女子ジャパン特集号Ⅲ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

Ⅱ号の続きです。(情報です。女子日本代表、国際今日試合デンマーク戦3連勝です！)

————— しかし昨年のワールドカップでは出せませんでした。東京オリンピック2020とは異なり、相手がフィジカルを前面に押し出してきたとき、日本の強みであるはずのアジリティが発揮できませんでした。それをどのように克服していくのでしょうか？ —————

恩塚ヘッド: もちろんフィジカル的なトレーニングも必要ですが、それこそが3つのキーワードで最初に掲げた「ポジショニング力」です。相手と横並びで勝負するのではなく、常に私たちが有利なポジションを取って、有利な勝負にこだわろうというわけです。

————— ポジショニングの重要性は、恩塚ヘッドコーチもこれまで何度か言及していました。しかしそれが思っていたよりも浸透できていなかったのですね —————

恩塚ヘッド: そうです。多くのコーチや選手が、ポジショニングは大事だと思っています。しかし、どこまで大事かを追求できていないように思います。

バスケットは何で勝負が決まるかという点、私は「ボールをなくす/なくさない」が1つ目であって、2つ目は「期待値の高いシュートを打てる/打てない」だと考えています。そして3つ目に「ポジショニング力」が来ます。よいポジションを取ることで、ボールをなくさずに済みますし、相手にプレッシャーを掛けることもできます。期待値の高いシュートを打つときも、いいポジションでサポートし続けているから、期待値の高いシュートを選べます。

多くの人は、バスケットを「シュートが入る/入らない」が大事なスポーツだと思っていて、次にセットプレーやアクションの多さ、巧みさだと考えがちですが、僕はそう思いません。大事なものはポジショニングです。

————— 有利な勝負に持ち込むための「ポジショニング力」を求めるときに、そもそもとして選手が有利か不利かを感じ取る力がないといけません —————

恩塚ヘッド: そうなんです。それができないとできません。これは育成世代からの課題でもあります。有利なときと不利なときとでやるのが違います。もっと言えば有利な状況と不利な状況は瞬間的に変わるものでもあります。それさえも読んで、プレーし続けられる力が日本には足りないと感じています。

だからこそおこがましいですが、よいポジションを取り続けて戦うことによって、高さを凌駕していくことが可能なのではないかと示したいのです。

有利か不利かを判断して、有利なポジションがあることを知って、それを愚直に取り続けて勝負していける日本にしたい。これまで日本の武器と言われてきた「速さ」では、言葉として大きすぎます。それをよりよく発揮するために有利なポジショニング力が重要になってくるんです。

————— 今年度の女子日本代表では、それをどのように磨いていきますか？ —————

恩塚ヘッド: 毎日の練習でひたすら言い続けます。トランジションオフェンスでボールマンが右サイドを攻めようとしたとき、左サイドを走る選手の1人が遅れて入ってきました。当然遅れている選手のディフェンスは、ボールマンのアタックに寄ります。 続きは次号にします。